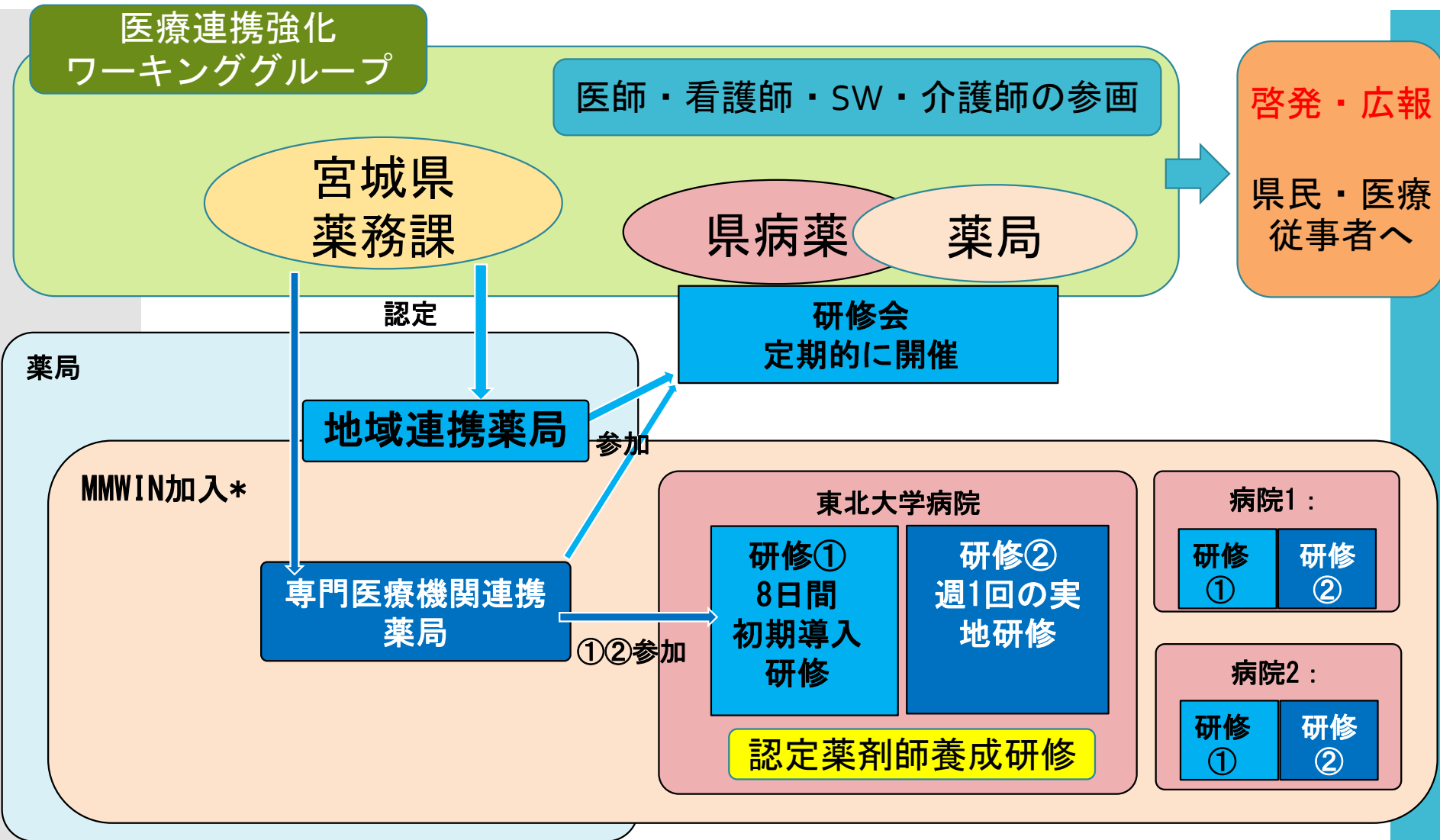


医療連携強化に向けた本事業の概念図



* : 宮城県の地域医療連携システム「みやぎ医療福祉情報 ネットワーク」(MMWIN)

** : 認定要件については、継続的に検討中であるため、本フローは一部未確定である。

医療機関間の連携強化に向けたモデル事業

がん患者のフォローアップ体制

東北大学病院

MMWIN*へ患者登録
②薬剤師等による説明と副作用確認・変更点などを治療手帳に記載

治療手帳・処方箋

保険薬局

DRUGS

疑義照会

①医師：診察・処方

即時性の高い伝達すべき内容、処方上の不備

⑩有害事象等重要なレポートがある患者に対し、診察前に薬剤師が患者に聞き取り（有害事象・食事等）

MMWINメールを利用したPDFでの運用開始

⑨医師に情報提供した旨を報告

⑦トレーシングレポート

即時性は低いが処方医へ情報提供した方が望ましいと思われる内容

③処方箋のプロトコール番号からプロトコール内容を確認
④治療手帳・MMWINで検査値、患者背景等を確認
⑤適切な患者情報を基に患者へ説明・副作用の確認と把握
⇒医師にフィードバックすべき副作用情報等を把握！
⑥かかりつけ薬剤師として患者を継続的にフォロー

東北大学病院 薬剤部DI室

ポリファーマシー対策

東北大学病院

④【退院時】ポリファーマシーの評価結果を薬剤師の退院時サマリとして共有（減薬結果又は減薬の可能性について）

②【入院時】持参薬を確認し、ポリファーマシーの評価を実施
③【入院中】医師と協議し減薬、または保留

①【入院時】かかりつけ薬剤師から服用薬剤に関する情報等を得る

⑥【外来時】トレーシングレポートでポリファーマシー対策の結果の共有

処方箋

【外来時】
⑤ポリファーマシーの可能性のある継続処方に対し処方した医療機関と調整

④'【転院時】ポリファーマシーの評価結果を薬剤師の退院時サマリとして共有（減薬結果又は減薬の可能性について）
⑤'【転院後】処方元でポリファーマシー対策実施

処方箋

A病院

B病院

